

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 129 号

目次

1. 年次大会行事（特別講演会）の開催・・・1
2. 学会誌『近畿の産業遺産』第 17 号 原稿募集
・・・1
3. 見学会：堂島・蔵屋敷跡と北浜・金融街を巡る
（予告）・・・1
4. 「シマノ自転車博物館の見学会」見学記
・・・寺島俊之・・・2
5. 大同生命特別展示『大同生命の源流“加島屋と広岡浅子”』を見学して・・・二階堂達郎・・・3
6. 【短信】JR 畷傍駅舎の保存活用をめぐる・・・4
7. 学会誌の電子ジャーナル公開について・・・4
8. 2022 年度第 3 回役員会議事録・・・4

年次大会行事（特別講演会）の開催

新型コロナウイルスの収束が見通せないため、年次大会は下記のように特別講演会をオンラインで実施します。

- ・開催日時：11月19日(土)
司会：岡田副会長，オンラインホスト：貝柄幹事，
挨拶(冒頭)：中山会長

・特別講演：13：30～

「近畿産業考古学会見学会の動向」

寺島俊之氏（本会幹事）

寺島幹事は、幹事に就任後、今日に至るまで12年の長きにわたり、ニューズレターの編集担当として、同紙の主要記事（総会・年次大会報告や見学記など）を執筆されています。これらの記事の蓄積は、それ自体が本会活動の歴史の貴重な記録となっています。同幹事の経験を基に、見学会を中心とする本会活動を振り返って分析を加え、エピソードも交えてご報告いただき、今後に向けた問題提起もしていただきます。

参加希望者は11月15日(火)までにメールで事務局にお申しください。

Web 会議ソフト「Zoom」を使用します。パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれでも参加いただけます。詳細な参加方法はお申込後にご案内します。

学会誌『近畿の産業遺産』第 17 号 原稿募集

『近畿の産業遺産』第 17 号の原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。資料の紹介など、論文形式をとっていないものでも結構です。

・申込締切日：

論文（査読付き）；2022 年 12 月 31 日

調査報告・研究ノートなど、論文以外；2023 年 2 月 28 日

見学会：堂島・蔵屋敷跡と北浜・金融街を巡る（予告）

「街歩き」を主体とする見学会として実施します。

- ・開催時期：2月下旬から3月中旬の平日
 - ・集合（予定）：大阪地下鉄・四つ橋線「肥後橋」駅
 - ・主な見学先（予定）：大同生命大阪本社（特別展示『大同生命の源流“加島屋と広岡浅子”』）、長州藩蔵屋敷跡、中津藩蔵屋敷跡、米会所跡、淀屋敷跡、日本基督教団大阪教会、大阪株式取引所（現大阪取引所）、手形交換所跡、住友銀行（現三井住友銀行）大阪本店、日本銀行大阪支店旧館など
- 詳細は次号でお知らせします。

2023 年度総会の開催予告

新型コロナウイルスが収束しない場合、オンライン方式かハイブリッド方式で開催する予定です。その場合は総会議案も書面議決とする予定です。

- ・開催日：2023 年 4 月 15 日(土)，13：30～

「シマノ自転車博物館の見学会」見学記

寺島俊之

9月24日(土)に頭記の見学会を開催した。南海電鉄堺東駅に13:30に集合。参加者は16名であった。徒歩数分で博物館に到着。事前学習として下記の映像を1階ミュージアムスクエアで視聴した。

- ・自転車の誕生と歩み(約15分)
- ・世界に開かれた堺 -自転車産業のルーツと今- (約7分)

次いで博物館事務局長兼学芸員である長谷部雅幸様に出迎えて頂き有料区域に入館する。共通認識は以下とされる。「自転車とは自分の力で思うままに進み行きたい場所に好きなペースで行ける。限りなく自由な乗り物、自転車」



写真1 シマノ自転車博物館エントランス

当館は株式会社シマノ(本社:堺市)が創業100周年を2021年に迎えたことを記念して2022(令和4)年3月に開設された。理念と方針は以下のとおり。

- ① 多様な視点から自転車の魅力を発信し、一人ひとりにとっての自転車の真価を発見します。
- ② 自転車に乗りたくなる気持ちの創出を目指します。

当館の前身は「自転車博物館サイクルセンター」である。大仙公園に1992(平成2)年に開設された。現在も体験試乗等は「自転車広場」で引き続き実施される。

当館は公益財団法人シマノ・開発センターが運営する企業ミュージアムであるが、企業色は希薄とされる。約570台の自転車を所蔵する一方、多彩な展示と映像により判りやすく楽しみながら学ぶことができる。なお、博物館法によれば、当館は私設博物館でかつ博物館相当施設とされるが、テーマパークや娯楽施設ではないとの認識である。

長谷部雅幸様の案内で館内を見学する。展示エリアは以下のとおりである。なお、館内撮影は静止画のみ自由である。

- ・1階:ミュージアムスクエア・ヒストリーシアター
- ・2階:常設展示
 - Aゾーン:自転車のはじまり(パノラマシアター)
 - Bゾーン:自転車のひろがり
 - Cゾーン:自転車のこれから自転車ギャラリー
- ・3階:非公開区域

- ・4階:自転車回廊
- ・5階:非公開区域

今回の見学会は時間の都合もあり、一般公開区域(1階・2階)となった。当館は来館者の55%が小学生団体である。そのため解説も判りやすく配慮されている。例えばタッチパネルも“基本”・“詳しく”・“更に詳しく”と三段階に分かれる。また日本語・英語の併記もされる。

★ヒストリーシアター

映像「自転車の誕生とあゆみ」自転車が身近な存在であっても、意外と認識不足であることに気づかされる内容である。

★Aゾーン(自転車のはじまり)

映像「発明家たちの夢」6面スクリーン構成で毎時0分と30分に上映される。視聴後に実物車両を見学すると理解しやすい。自転車は19世紀前半にドイツで発明されフランスやイギリスで育っていった。日本には明治初頭に自転車が輸入されたが、当初は転倒事故も多発した。このとき修理を支えたのは鍛冶屋だった。堺では鉄砲鍛冶の流れをくむ職人達が自転車修理から部品製造へと業務を拡張していった。

★Bゾーン(自転車のひろがり)

◎実物車両

交通文化としての展示である。一般用や競技用等の分類ごとに転換期を代表する自転車を展示する。特に日本発祥の電動アシスト車は貴重である。

◎自転車技術

組立加工産業としての展示である。構成部品展示では高度な生産管理と品質管理がされていると感じた。一方、自転車が倒れない秘密等、身近な疑問に答える展示もあった。

★Cゾーン

自転車は健康や環境に役立つとの壁面絵巻がある。また、オススメ自転車との記念撮影をスマホ転送できるコーナーもある。

★自転車ギャラリー

フード付きの雨天対応自転車等の実物車両展示がされる。

見学の最後は1階ミュージアムスクエアである。目立たないが銘品展示が二点ある。一つは装飾が施された名刀で、もう一つは「皇室献上自転車1936(昭和11)年」である。現在の上皇陛下向けに2台製造され当館には予備機が展示される。見学会は予定どおり16:30に現地解散した。

(所感)

- ① 周辺機器の発達も自転車の普及に貢献したと考えます。例えば、松下幸之助が1923(大正12)年に考案した自転車用ランプにも触れて良いと思います。
- ② 自転車のある風景映像の収集

現在の日常風景も10年後には歴史映像になります。

③ 文化財登録

鉄道・自動車・航空・船舶と比べると自転車の文化財登録は僅少とされます。特に皇室献上自転車は美術工芸品として国重要文化財級と考えます。

(謝辞)

今回の見学会を開催するに当たり、シマノ自転車博物館事務局長兼学芸員である長谷部雅幸様にはお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



写真2 ゾーン展示の見学シーン



写真3 銘品展示「皇室献上自転車」

大同生命特別展示『大同生命の源流“加島屋と広岡浅子”』を見学して

二階堂達郎

標記の特別展示が、7月15日(金)から大同生命保険株式会社大阪本社ビル・メモリアルホールで開催されている。同社は近世大坂の「豪商」のひとつである「加島屋」(廣岡家)を起源としている。

大坂の豪商としては、住友、鴻池がよく知られているが、加島屋はあまり知られていない。これは加島屋に関連する古文書がほとんど公開されていなかったことによる。

ところが、今から遡ること約10年前の2011(平成13)年、同社の創業110周年(1902年創業)を機に、同社の大阪本社ビルに保管されていた約2,500点の古文書群が大阪大学大学院経済学研究科に寄託された。

この古文書群の中の核となる部分は『大同生命七十年史』(1973(昭和48)年刊行)の編纂のために、同社第3代社長・廣岡正直(1890-1978)が奈良の疎開先から持ち込んで(時期は不明)、提供したものである。目

録については大阪市編纂所によりすでに作成されていたが、これを受け継ぐ形で、大阪大学の研究グループによる本格的な調査・研究が始まった。2012(平成14)年、同社の創業110周年記念事業として、この研究成果の一部が同メモリアルホールで公開・展示された。

2015(平成27)年、NHKが廣岡浅子(1849-1919)をヒロインとする連続テレビ小説「あさが来た」を放映したが、これがきっかけとなり、親族から大量の資料が新たに提供された。

これらの資料の大部分は江戸時代の古文書であったが、古写真や調度品も含まれていた。このうち古文書群は「廣岡家文書」と命名され、神戸大学経済経営研究所企業資料総合センターに、調度品などは大阪くらしの今昔館に寄贈された。

標記の特別展示は、同社の創業120周年記念事業として、過去10年間の研究成果を反映させ、リニューアルして開催されたものである。

その成果のひとつが考証を重ねて作られた精巧な加島屋本宅再現模型である。展示コーナーは「大坂の豪商・加島屋」「九転十起生・広岡浅子」「大同生命の創業から現在」からなる。

展示は、新資料の調査・研究の成果が反映されており、近世の大坂・堂島米市場や金融取引、明治維新後の加島屋による近代事業への模索や展開がよく分かる内容となっている。



写真1 メモリアルホール内の展示

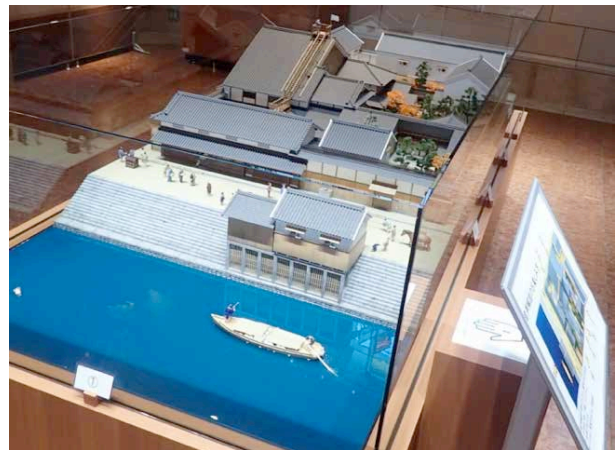


写真2 加島屋本宅再現模型



写真3 大同生命旧大阪本社ビルの模型

地下1階・地上8階・塔屋1階、竣工:1925(大正14)年5月、設計:ヴォーリス建築事務所、施工:竹中工務店。

メモリアルホール内や大同生命大阪本社ビル周辺には、ヴォーリスが設計した旧本社ビルの当時のレリーフやピナクル(尖塔)等が移設されている。

【展示会場】大同生命大阪本社2階メモリアルホール
 【開館時間】火～金曜日は10:30～16:00(入館は15:30まで)、月曜日(祝日を除く)はガイドツアー実施日(要事前申込)。

【休館日】土・日曜日、祝日、年末年始

【短信】JR 畷傍駅舎の保存活用をめぐる動き

10月16日(日)、NPO法人八木まちづくりネットワークが「JR 畷傍駅舎の保全活用を進める会」の設立総会を開催した。約40人が出席、会規約を承認、代表理事に米村博昭氏(県建築士会会長)を選出した。

貴重な歴史的建造物の同駅舎をめぐっては、JR西日本が樞原市へ無償譲渡して活用を図る構想があったが、財政的理由から市が断念を表明した経緯がある。無償譲渡の期限が来年3月に迫る中、同駅舎の建て替えの回避にむけ、無償譲渡の受け入れの市への働きかけや官民連携による保全活用の取り組みを進めることにしている。

学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2022年8、9月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。5・6号掲載論文の公開作業が遅れていることにお詫び申し上げます。

・2022年8月:

掲載論文数(これまでに掲載済みの分):16

書誌事項へのアクセス数:合計131回

全文PDFへのアクセス数:合計82回

(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;22回,全文PDF;12回)

・2022年9月:

書誌事項へのアクセス数:合計89回

全文PDFへのアクセス数:合計72回

(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;13回,全文PDF;11回)

2022年度第3回役員会議事録

日時:9月7日(水)19:20～20:40、オンライン開催

参加者:中山会長、岡田副会長、貝柄幹事、寺島幹事、二階堂幹事、溝口幹事、若林幹事

議事:

1. 前回役員会議事録の承認

2. 見学会について

次回見学会:シマノ自転車博物館、9月24日(土)、13:30、南海高野線「堺東」駅北西口に集合、事務局局長長谷部氏と貝柄幹事に案内と解説を依頼。次々回見学会:大同生命展示の見学会の提案あり。

3. 2022年度年次大会について

11月19日(土)13:30開始、オンライン方式で実施。特別講演:寺島幹事「近畿産業考古学会見学会の動向」。司会:岡田副会長、ホスト:貝柄幹事、挨拶:中山会長。研究発表申込締切日:11月6日(日)。

4. 学会誌について

第16号:9月に刊行予定。第17号の原稿提出期限:論文は2022年12月31日、論文以外は2023年2月28日。

5. 学会誌の電子ジャーナル公開について

5・6号掲載論文公開作業準備中。

6. ニュースレター128号

7月中旬に発行予定。

7. 学会新ホームページの公開について

新ホームページを9月2日に公開(担当:貝柄幹事)

8. 調査・研究について

関西電力堺港発電所:調査報告をとりまとめ中。津守下水処理場:覚書締結交渉中。

9. その他

訃報:清水宏一元会員。長壽會細菌研究所・工場跡見学ツアー:9月10日(土)開催、二階堂幹事が解説。

次回役員会:2022年11月2日(水)、19:15～。

2022年11月5日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL: <http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel:06-6381-8434(代), Fax:06-6382-4363(代)

E-mail: kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号:00950-9-150085, 加入者名:近畿産業考古学会